

授業科目名	奈良学(2000061)		
時間割名	奈良学(42201)		
時間割担当	桑原祐子		
実施期	前期	単位数	2 必修
曜日・時限	木・2		

■授業の目標・概要

奈良は、飛鳥・藤原京そして平城京という古代都市が生まれ、歴史の中心舞台となった地域である。平城京が置かれていた奈良時代には、シルクロードの東の終着点として国際色豊かな文化・芸術が発展した。また、仏教の興隆によって大伽藍の立ち並ぶ都市として多くの文化財が創出され、それらは今日まで奈良の地に伝えられている。本講義では、国際都市奈良の文物が伝わる正倉院の宝物や正倉院に残る文字資料、生きた歴史資料である木簡などを取り上げながら、国際都市奈良とはどのような都市であったのか、そこに開花した文化とはどのような文化であったのか、ということを学ぶ。

■学習の到達目標

- 1、正倉院の宝物の由来と特色を理解する。
- 2、正倉院に残る文字資料について説明ができる。
- 3、古代における、国際都市としての奈良や仏都としての奈良の特質を理解する。

■授業方法・形式

講義を中心に行う。毎回、所見カードの提出を求める。

■授業計画

- 第1回 正倉院とは何か―正倉院「正倉」の由来と歴史
- 第2回 北倉・南倉・中倉
- 第3回 東大寺廬舎那仏と正倉院宝物―東大寺献物帳の世界
- 第4回 正倉院宝物の来た道―シルクロードの終着点
- 第5回 正倉院宝物と萬葉集―樹下美人
- 第6回 施薬院と薬物の出蔵―慈悲の心
- 第7回 正倉院宝物はなぜ残ったのか―1300年の時を越えた理由
- 第8回 大仏開眼会にみられる国際色―開眼師と楽舞
- 第9回 光明皇后と写経事業―仏教による国家安寧の祈り
- 第10回 正倉院文書とは何か―東大寺写経所の残した資料
- 第11回 写経生の生活 1―休暇願からわかる病氣と治療
- 第12回 写経生の生活 2―借金の証文
- 第13回 写経生の教養 1―正倉院文書・木簡に見える習書
- 第14回 写経生の教養 2―文字と言葉の新しい世界
- 第15回 まとめ・総合復習

■成績評価の基準

総合テスト(70%)受講状態(30%)で、総合的に評価を行う。詳細については担当者から指示する。

■授業時間外の課題

授業時間内に、授業担当者から指示する。

■メッセージ

古代の奈良に関する事柄、正倉院に関することについて、様々な情報を収集すること。
私語・飲食を禁ずる。携帯電話等の使用禁止。

■教材・教科書

適宜プリントを配布する。

■参考書

- 『正倉院宝物』1～10 (毎日新聞社)
- 栄原永遠男『天平の時代』(集英社 1991年)
- 杉本一樹『正倉院』(中央公論新社 2008)中公新書
- 丸山裕美子『正倉院文書の世界』(中央公論新社 2010)中公新書